

社会変動ダイナミズムの物的基礎について
——シュンペーターの社会認識を中心として——
高橋一正(愛知文教大学・非常勤講師)

本報告では、社会変動のダイナミズムを把握するにあたり、これを経済的側面とりわけ物的側面から基礎づける景気循環の過程について、シュンペーターの提示した図式を主軸として検討する。

さて各経済主体は、経済における諸事象の「日常性」と「非日常性」とに常に曝されている。そしてこれに対し、何らかの形で反応し対処する。「日常性」は、シュンペーター的な図式において「循環の流れ」の中に織り込まれる。これは「反応装置」としての経済機構において、まさしく「受動的反応」の対象である。一方、「非日常性」をもたらす外的要因は、「受動的反応」および「創造的反応」の両者の対象となる。

「創造的反応」は、シュンペーターによれば、企業者特有のものである。これは「非日常性」への反応であると同時に、新たな「非日常性」の動因ともなる。これは社会的リーダーシップの一類型としての企業者機能の発露に外ならない。シュンペーターは企業者を、あくまで機能主体として捉えていたから、本来、かかるリーダーシップを発揮する可能性は、様々な経済主体に開かれている。このことは、社会的災厄に対する各経済主体の対処方法の在り様をも暗示している。

すなわち、もし「安全」というものを、単に「動的非事象」として捉えるとしても、かかる「非事象」を保持するためには、「受動的反応」だけでは量的にもタイミング的にも十分でなく、「創造的反応」が不可欠な場合があり得ると思われる。災害に代表されるような、社会的災厄に内在する「危険」というものが、遺憾ながら「進化」してしまうものである以上、「安全」確保のための諸努力も必然的に進歩しないわけにはいかない。したがって、かかるリーダーシップを担う主体の層と幅をも、広げないわけにはゆかない。

かかる諸努力に対してこそ、経済発展と社会発展との相互関係に関するシュンペーターのヴィジョンが、力を与えるのではないか。

シュンペーターは、発展と、(ポジティブな意味での) 進歩がイコールでないということに常に強調していた。少なくとも経済発展について、その良し悪しを判断するためには、その物的な側面について、何らかの評価を下し得るのでなければならない。その上で、社会発展の適切さに対する評価が必要となる。シュンペーターの経済社会構想にあつては、かかる評価は、イノベーションがもたらす物的変化と経済社会との関係を精査することによってこそ可能になる。これは、災害のもたらすダメージからの経済社会的な復興にも資するものであろう。

ただ、社会的災厄に内在する「危険」は、我々の経済社会を構成する諸産業分野にたいして、一様に単純に降りかかるものではない。イノベーションがもたらす物的変化も、ある程度の周期性を伴った循環的変動を経て、諸産業分野に影響を及ぼし、その効果を全うする。社会的災厄によるダメージからの回復もまた、これと類似した経過を辿る。そもそも

もシュンペーターは、景気循環に関するヴィジョンと理論とを構築するに際して、経験から知られるもの、すなわち直接的に叙述し得るものは、資本主義の純粋な作用というよりは、資本主義過程が過去に経験した様々な傷害や変動要因に影響された、各部門に対して一様に働くのではない作用であると考えていた。

したがって、シュンペーターが重視する部門分析的視点に依ってこそ、かかる作用に対して経済社会における各産業が為すべき受動的反応と創造的反応の在り様を検討でき、ひいては、かかる問題に対して十全に取り組むことができるのではないか。

本報告では上述のような問題意識のもとで、社会全体として、良好な社会環境と産業構造とを、景気循環を通じていかに整備するか検討し、その上で、頑健かつ健全な社会を構築し維持するための方策を探っていく。

参考文献

- Kondratieff, N. D. (1926) "Die langenen Wellen der Konjunktur," *Archiv für Sozialwissenschaft und Sozialpolitik*, Bd. 56, Hft. 3, pp. 573-609.
English translation ; "The Long Waves in Economic Life," *Review of Economic Statistics*, Vol. 17, No. 6 (November, 1935).
- Keynes, J. M. (1936) *The General Theory of Employment, Interest and Money. The Collected Writings of John Maynard Keynes, VII*, 1973. 邦訳. 塩野谷祐一訳『雇用・利子および貨幣の一般理論』東洋経済新報社, 1983年.
- Schumpeter, J. A. (1926) *Theorie der Wirtschaftlichen Entwicklung: Eine Untersuchung ueber Unternehmerrgewinn, Kapital, Kredit, Zins und den Konjunkturzyklus*, 2nd. ed (revised), Muenchen und Leipzig: Dunker & Humblot .
塩野谷祐一・中山伊知郎・東畑精一訳『経済発展の理論』岩波書店, 2001年.
- Schumpeter, J. A. (1939) *Business Cycles: A Theoretical, Historical, and Statistical Analysis of the Capitalists Process*, New York, 1939. 邦訳. 吉田昇三監修, 金融経済研究所訳『景気循環——資本主義過程の理論的・歴史的・統計的分析——』(全五巻) 有斐閣, 1958~1964年.
- Spiethoff, A. (1925) 'Krisen' *Handwoterbuch der Staatwissenschaften*, 4. Aufl Bd. 6, Jena. 望月敬之訳『景気理論』三省堂, 1936年. 恐慌論(国家学辞典, 第四版, 第六巻, イエナ, 1925.)